

政務活動 (参加・**実施**) 報告書

令和 6 年 9 月 18 日

会 派 公明党議員団参 加 者 神山 哲太郎

政務活動先 (目的地)	士別市適応指導教室ウィズ 士別市西 1 条 8 丁目士別市生涯学習情報センター『いぶき』				
開催団体等					
政務活動期間	令和 6 年 9 月 18 日 (水)			1 日間	
政務活動項目 (名称等)	適応指導教室について				
政務活動参加者	神山哲太郎	大西厚子	大野正和	藤田広美	
					計 4 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	<p>《目的》 本市におきましても適応指導教室として設置拡大をされましたが、ハードの部分はもちろん、ソフト面や取り組み、実働の上での課題解決を意見交換させて頂き、今後の不登校対策や予防に活かす提案内容を大きく検討するべく種々学ばせて頂くことを目的とします。</p> <p>《適応指導教室ウィズについて》 ○士別市適応指導教室ウィズは H26 年から開設され、目的としてはあくまでも教育支援の場、社会的自立や学校復帰に向けて歩き出す支援を行う場としておりますが、何か型にはめるという事は一切無く、一歩踏み出し来ただけでもよし、やりたいことをやらせる、かなりな臨機応変さを前面に出しておりました。 ○主任指導員さんは開設当初からいる退職教員、ここ(ウィズ)に無い物はないと言い切られておりました。撤退したデパートの跡地を士別市生涯学習情報センター『いぶき』として開設し、一階二階には市立図書館(子ども向け図書館もある)、生涯学習情報センター(展示グループボランティア団体や幼児向け学習施設がある)、さらには職員室には元デパート食品売り場の調理場であったのか水まわりが充実しているのもあり、一緒にご飯も調理し食べたり、運動して体育だとかなんでも教育に結びつく施設でした。 ○結びつくというよりは結びつけることが大変に印象的で大きく共感できる内容でした。 「家から一歩出ることに重きを置く」という言葉が印象に残り、「やりたいことをやらせる」はその後、興味があるものは徹底的にという考えはこちらも大きく共感しました。</p>				

○実際に一名来ていた小学校中学年の男の子はパソコンの前でゲーム（動きに合わせてタイミングよくボタンを押すだけの簡単なもの）を指導員さんと笑いながらしており、お聞きすると今は来るたびにそればかりやるので来る目的になっているのだと思いますとおっしゃられておりました。それがなければおそらく来ることはできないだろうとも教えて頂きました。

○中には正面玄関から出入りすることが難しい子が数名いるとのことでしたが、デパートの跡地という事もあり裏口（当時は荷物の搬入口）から「秘密のルート」と呼び、来やすく帰りやすく言葉で面白くして気持ちを軽くする努力を紹介して頂きました。施設を作るだけでなく、やはり人と人でしか進まないことを確認できました。

○教室への導きは様々なケースがありますが、現在は医療機関からの紹介が多くなっているようで、心療内科の先生に名寄から事あるごとに来て頂いているようでした。

○子どもとの関わりについて印象的だったことは、まずは信頼関係の構築が一切通用しないのでここが一番、そこから仮に学校に行けるような発信があったら一緒に学校に付き添って通う活動をする、10年前はウィズに学校の先生が来たら怒っていた子どもたちはエネルギーがありましたが今はあまり怒りはしない、しかしながらできるだけ信頼関係を築き、一緒に学校に付き添って通うことにしているそうです。

《所感》

歴史が10年あるだけあって様々なケースや課題、経験が豊富で実りある学びとなりました。特に時代に即した対応の歴史がこれからの宝の子どもたちのためになることは間違いないと確信しました。

上記文中にも書かせて頂きましたが、どこまで行っても教育は人対人、少子化で嘆くのではなくひとりの子に対して光を当てる光量を大きくするべく関わらなければ不登校問題は解決しないと思います。

とはいえども、教員や指導員を大きく増やすことはむずかしい課題だと思います。しかし、信頼関係から始まるのであれば指導者と言われる指導側の関わりは増やさないとなりません。ひとくくりに簡単にはいきませんが、課題解決を考え続けなければと思います。

資料名（会派保管）

「士別市議会概要（令和6年度）」
「議会広報士別」

会派内回覧

